

### PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number:

04-139127

(43) Date of publication of application: 13.05.1992

(51)Int.CI.

A61K 31/495 A61K 31/55 // C07D243/08 C07D295/08

(21)Application number: 02-258635

(71)Applicant: MITSUBISHI KASEI CORP

(22)Date of filing:

27.09.1990

(72)Inventor: OKUJIMA HIROMI

NARIMATSU AKIHIRO

KOBAYASHI MAKIO

SATO NAOYA MORITA MIYUKI

#### (54) MEDICINE FOR PREVENTING OR TREATING CARDIOPATHY

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the title medicine free from side effects on the circulatory system, capable of regulating intracellular Ca2+ concentration, containing, as active ingredient, an aminobenzenesulfonic acid derivative or its salt.

CONSTITUTION: The objective medicine containing, as active ingredient, an aminobenzenesulfonic acid derivative of the formula[R1 is H, alkyl, cycloalkyl, haloalkyl, halogen or aryl; R2 is H or (cyano-, nitro-, alkoxy-, halogen-, alkyl-or amino-substituted) alkyl or aralkyl; (n) is 1-4] or its pharmaceutically permissible salt [e.g. 2-(1-piperazinyl)-5-methylbenzenesulfonate]. The present medicine is useful for the prevention or therapies of stenocardia, cardiac infarction, hypertension, heart failure, arrhythmia, etc., because of its activity for regulating the intracellular Ca2+ concentration in the cardiac muscle or vascular smooth muscle.

#### **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

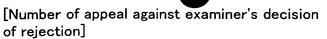
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

# BEST AVAILABLE COPY



[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

#### 平4-139127 ⑫ 公 開 特 許 公 報(A)

⑤Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

43公開 平成4年(1992)5月13日

A 61 K 31/495 31/55

ABS ABP

7252-4C 7252-4C\*

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全14頁)

60発明の名称

心疾患を予防または治療する薬剤

願 平2-258635 ②特

願 平2(1990)9月27日 @出

仰発 明 者

弘己

博

明

神奈川県横浜市緑区鴨志田町1000番地 三菱化成株式会社

総合研究所内

⑫発 明 者 松 成

神奈川県横浜市緑区鴨志田町1000番地 三菱化成株式会社

総合研究所内

⑫発 明 者 牧 生 神奈川県横浜市緑区鴨志田町1000番地 三菱化成株式会社

哉 老 佐藤

神奈川県横浜市緑区鴨志田町1000番地 三菱化成株式会社

総合研究所内

総合研究所内

三菱化成株式会社 勿出 願 人

東京都千代田区丸の内2丁目5番2号

弁理士 長谷川 個代 理 人

外1名

最終頁に続く

明

勿発

#### 1 発明の名称

心疾患を予防または治療する薬剤

#### 2 特許請求の範囲

#### (1) 下記一般式(I)

(上記式中、R」は水素原子、C」~C。のアル キル基、C。~C,のシクロアルキル基、C.~ C。のハロゲン化アルキル基、ハロゲン原子また はC。~Cュュのアリール基を表わし、Rュ は水素 原子、C, ~C。のアルキル基またはシアノ基、 ニトロ基、C、~C。のアルコキシ基、ハロゲン 原子、C、~C。のアルキル基およびアミノ基か ら選ばれる1つ以上の置換基を有していても良い C,~Cizのアラルキル基を表わし、n は1~4 の整数を表わす。)で示されるアミノベンゼンス ルホン酸誘導体またはその薬学的に許容し得る塩 を有効成分とする心疾患を予防または治療する薬

(2) R<sub>1</sub> が水素原子、C<sub>1</sub> ~ C<sub>4</sub> のアルキル基、 Cs~C。のシクロアルキル基、トリフルオロメ チル基、ハロゲン原子またはフェニル基を表わし、 R。が水素原子、C、~C。のアルキル基または C、~C。のアルキル基、C、~C。のアルコキ シ基もしくはハロゲン原子で置換されていてもよ いC,~C」2のアラルキル基を表わし、nが2ま たは3を表わすことを特徴とする請求項1記載の

#### 3 発明の詳細な説明

#### (産業上の利用分野)

本発明は、アミノベンゼンスルホン酸誘導体ま たは薬学的に許容される塩を有効成分とする心疾 患を予防または治療する薬剤に関する。

(従来の技術および発明が解決しようとする課題) 心筋あるいは、血管平滑筋細胞内へのカルシウ ムイオン(Ca<sup>‡</sup>・)の過蓄積は、心筋障害、心臓

伝導障害異常あるいは血管異常収縮等を招き、循環器系疾患の原因となる(John A. Watts 、 American Journal of Physiology、第238巻、909~916ページ、1980年; Junichi Azuwa、Sulfur Amino Acids、第6巻、179~201ページ、1983年; Gordon L. Todd、Cardiovascular Research、第20巻、645~651ページ、1986年: Hideyuki Ohta et al、Cardiovascular Research、第22巻、407~413ページ、1988年)。又、逆に細胞内Cazが著しく低下すると、心筋あるいは血管の収縮が減少し、機能低下を引き起こす(Adawia a Alousi et al、Cardiovascular Research、第19巻、483~494ページ、1985年)。

従って、これらの細胞内 C a \*\* 濃度を調節する 薬剤は、循環器系疾患、例えば虚血性心疾患(心 筋梗塞、狭心症等)、心不全、高血圧あるいは不 整脈等に対して有用な予防または治療薬となる。

従来、心筋あるいは血管平滑細胞内 Ca<sup>z</sup>・の過 蓄積を抑制する薬剤として、例えば Ca 拮抗薬あ るいは B - 受容体遮断薬が知られている。しかしこれらの薬剤はその使用量によっては、 C a 拮抗剤の場合、細胞内 C a \*・濃度の低下により、 A 連断薬の場合カテコールアミン作用の遮断により、心臓の機能が抑制され、心不全状態をひきおこすことが知られており(上田慶二、綜合臨床、 3 6 巻、8 5 1 ~ 8 5 4 ページ、1 9 8 7 年)、循環器疾患への適用範囲が限られていた。

#### (課題を解決するための手段)

本発明者らは細胞内Ca・濃度を調節する化合物の探索を行い、鋭意検討した結果、アミノベンセンスルホン酸誘導体が循環器系への副作用がなく、細胞内Ca・濃度を調節することを見出し、本発明に到達した。

即ち、本発明の要旨は、

下記一般式(1)

(上記式中、RIは水素原子、CI~C。のアルキル基、C3~C4のシクロアルキル基、C1~C4のハロゲン化アルキル基、ハロゲン原子、たはC4~C4のアリール基を表わし、R2は水素原子、C1~C6のアルキル基またはシアスは基本では、C1~C6のアルキル基またはシアスロゲンがの選ばれる1つ以上の置換基を有していてしまいて、~C12のアラルキル基を表わし、nは1~4の整数を表わす。)で示されるアミノベンとはの整数を表わす。)で示されるアミノベンとはを有効成分とする心疾患を予防または治療する。

以下、本発明を詳細に説明する。

R」としては、水素原子;メチル基、エチル基、 nープロピル基、isoープロピル基、nープチ ル基、tープチル基、nーペンチル基、nーヘキ シル基等のC」~C。の直額又は分岐額アルキル 基;シクロプロピル基、シクロプチル基、シクロ ペンチル基、シクロヘキシル基等のC。~C。の

シクロアルキル基;トリフルオロメチル基等のCi ~ C 。 のハロゲン化アルキル基:フッ素原子、塩 素原子、臭素原子等のハロゲン原子;またはフェ ニル基、トリル基、ナフチル基等のC。~C12の アリール基が挙げられ、Rzとしては、水素原子 ;メチル基、エチル基、n-プロピル基、iso - プロピル基、n - プチル基、t - ブチル基、n - ペンチル基、n - ヘキシル基等の C, ~ C。の 直鎖または分岐鎖アルキル基;シアノ基、ニトロ 基、メトキシ基、エトキシ基、プロポキシ基、ブ トキシ基、ペントキシ基、ヘキシルオキシ基等の C」~C。のアルコキシ基、フッ素原子、塩素原 子、臭素原子等のハロゲン原子、およびアミノ基 から選ばれる1つ以上の置換基を有していてもよ いて,~Cはのベンジル基、フェネチル基、ナフ チルメチル基等のアラルキル基が挙げられる。

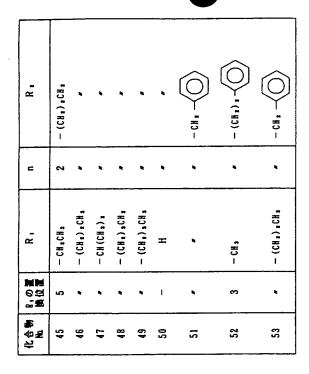
下記一般式(I)で表される本発明の具体的な 化合物としては、例えば下記表 1 に記載のものが 挙げられる。

* *	R.	H	•	•	*	•	*	•	•
CCH;	c	2	*	•	•	•	•	•	•
	R,	н	- CH 3	- CH CH 3	-CH3CH3CH3	- CH (CH 3) s	- (CH1) CH1	- CH 3	- CH & CH 3
	2. 数 图面	1	ლ	•		•	•	4	•
<b>-</b>	合物	-	2	က	4	2	9	~	œ
•									

R.s.	×	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
c	2	•	•	•	•	*	•	•	•	•		•
Rı	-(CH1)1CH1	- CH (CH 3) 1	- (CH <sub>2</sub> ) 3CH <sub>3</sub>	-CH,	-CH1CH1	- (CH:),CH;	- CH (CH 3) 1	- (CH <sub>1</sub> ) ,CH <sub>1</sub>	- (CH1) +CH1	- (CH1) +CH1	- CH 3	-CH,CH,
R. の調整位置	4	•	•	2	•	•	•	•	•	•	9	,
化合物	6	2	=	12	13	*	15	16	11	18	19	20

											-	
R.	Ŧ	- CH 3	•	*	•	•	•	•	•	•	*	*
c	2	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
R.	- (CH;);CH;	=	- CH * CH *	- (CH <sub>3</sub> ) *CH <sub>3</sub>	- CH (CH3) :	- (CH s) 3 CH s	- CH3	- CH.CH.	- (CH1) CH1	- CH.	- CH, CH,	- (CH1) CH1
の位置 正正	9	ı	က	•	•	•	4	•	•	2	•	•
令 他看	21	22	23	77	25	97	27	88	53	30	31	32

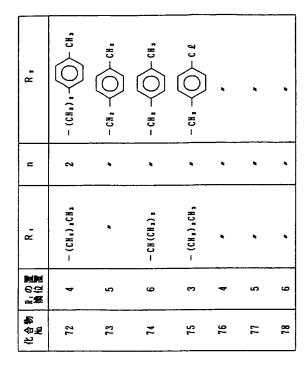
R.	- CH3	•	•		•	*	•	•	•	- (CH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub> CH <sub>3</sub>	•	•
<b>-</b>	2	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
. Я	- CH (CH 1) 1	- (CH3) CH3	- (CH <sub>1</sub> ) (CH <sub>1</sub>	- (CH <sub>2</sub> ) ,CH <sub>3</sub>	- CH <sub>3</sub>	- CH , CH ,	- (CH1) CH1	- CH (CH;);	- (CH;) CH;	- (CH s) CH s	- (CH1) CH1	-сн.
2. 数位 证明	s	•	•	•	9	•	•	•	•	က	4	L.
名 香香 香香	33	3	35	36	37	38	39	2	<b>=</b>	42	£	7



В.	(CR1) -	- CH, -	•	•	¥	•	·	- (CH,),-
L	2	a.	•	*	*	•	•	*
R.	- CH 3	- (CH;),CH;	- CH 3	- CH 2 CH 3	- (CH , CH ,	- CH (CH 3) 1	- (CH <sub>1</sub> ) 1CH <sub>1</sub>	- (CH º) (CH º
1,の調整位置	þ	*	ß	8	•	*	•	
化合物	54	55	56	57	28	59	09	61

R.	- CH, - OCH,	-CH,	- CH, O	OCH, OCH, OCH,	- CH, - OCH,
c	83	•	•	•	*
R.	- (CH <sub>4</sub> ) <sub>2</sub> CH <sub>3</sub>	- CH (CH 3) 8	- CH (CH 3) 1	- (CH <sub>3</sub> ) , CH <sub>3</sub>	— (CH E) ECH 3
B. の調査	5	•	•	4	5
化合物 No.	29	63	\$	65	99

R.	- (CH,), - OCH,	-CH; OCH;	- CH, OCH,	H3C 0CH	•	- CH, - CH,
<b>c</b>	2				*	*
R,	- CH (CH3) :	- (CH s) sCH s	•		•	•
8,の間 様位置	5	9	လ		9	ო
化合物	67	89	69		10	11



合 香 香	S. 後位 電温	В,	<b>c</b>	R 8
19	က	- (CH <sub>2</sub> ) CH <sub>3</sub>	2	-си, -О - оси,
	4	•	•	•
<del></del>	2	•	•	- (CH,), -
83	9	*	•	-сн. О - осн.
83	ı	×	ო	×
*	9	- CH3	•	•
82	•	- CH 2 CH 3	•	•
98	*	- (CH <sub>1</sub> ) , CH <sub>1</sub>	•	•
.8	,	— CH (CH 3) 2	•	*

R	н	- CH3	00%	*#30 H	•	•	•	*	
e	ო	•	•	83		•	*	•	
۳.	- (CH <sub>2</sub> ) ,CH <sub>3</sub>	- (CH <sub>2</sub> ) CH <sub>3</sub>	•		<u>ت.</u> ا	<i>7</i> 0 -	- Br	- CP 3	
2. () () ()	လ		•	*	•			•	
かる	88	68	06	16	92	93	94	95	

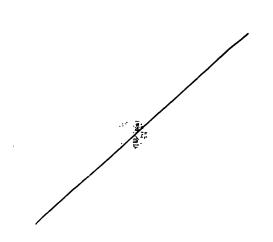
R. 8	H	•	- CH3	•		•	•
ء	2	•	*	•	•	•	
۳,	$\Diamond$	$\Diamond$		7 D -	- Br	- CP <sub>3</sub>	$\Diamond$
S. 数 合位 運運	သ		•	•	•	•	•
化合物	96	97	86	- 66	100	101	102

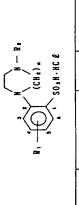
また上記化合物の薬学的に許容されうる塩類を有効成分とする薬剤も本発明の範囲に包含される。

本発明の化合物に含まれる窒素 2 個を含んだ複 素環に着目した場合、好ましい塩としては、塩酸 塩、臭化水素酸塩、硫酸塩、リン酸塩、フマル酸

塩、コハク酸塩、シェウ酸塩、乳酸塩等の無毒性 の塩が挙げられる。

その具体的な化合物の1例を、下記表2に示す。





8,0厘数位置
<b>c</b>
R.

本発明に保わる化合物を心臓血管系用変剤として用いる場合、常法によりヒトに経口または非経口で適用される。経口投与のための剤形としては、顆粒剤、細粒剤、散剤、錠剤、硬カプセル剤、軟カプセル剤、シロップ剤、乳剤、懸濁剤または液剤等が挙げられる。また、非経口投与のための剤形としては、注射剤、座剤、経皮剤等が挙げられる。

上記一般式(1)で示される化合物またはその 薬学的に許容されうる塩は、上記剤形中において、 固体、もしくは液体の医薬用担体または賦形剤、 安定剤、潤滑剤、甘味剤、保存剤、懸濁化剤等の 通常用いられる医薬用添加剤とともに含まれてお り、治療上の有効成分の担体成分に対する含有割 合は1重量%~90重量%の範囲が好ましい。

用いられる固体担体の例としては、乳糖、白陶 土、ショ糖、結晶セルロース、コーンスターチ、 タルク、寒天、ベクチン、アカシア、ステアリン 酸、ステアリン酸マグネシウム、レシチン、塩化 ナトリウムなどが挙げられる。液状担体の例とし ては、シロップ、グリセリン、落花生油、ポリビニルピロリドン、オリーブ油、エタノール、ベンジルアルコール、プロピレングリコール、水などが挙げられる。

本発明の化合物を経口的に用いる場合は、その使用量は成人に対して、1日0.01mg~1000mgの範囲(好ましくは0.1mg~100mg)にあるが、年令、性別、病態、症状、同時処理の有無等により、適宜増減することが更に好ましい。また、投与回数は、1日1回または適当な間隔をおいて、1日数回に分けて投与してもよい。

本発明の化合物を注射剤として用いる場合には、成人に対して1回量0.01mg~100mgを連続投与または間欠投与することが好ましい。

次に本発明の化合物の製造方法について説明す

本発明の化合物は、例えば次のような経路(I)で 製造することができる。

<経路(1)>

(上記式中、RI、RIおよびnは既に定義した 通りであり、RIは水素原子またはCI~C。の 低級アルキル基を表わし、XおよびYはそれぞれ 独立してハロゲン原子を表わし、Zはハロゲン原

U || |子または − C H を表わす。)

上記式(Ⅱ)で示されるアニリンとイソシアン酸あるいはイソシアン酸の塩、例えばイソシアン酸の塩、例えばイソシアン酸ナトリウム等を酢酸あるいは酢酸と水の混合溶媒等の極性溶媒中で、0℃~100℃で数分から数時間反応させることにより、またはイソシアン酸エステル、例えばイソシアン酸メチル、イソシアン酸エチル等を酢酸エチル、テトラヒドロフラン、N、N・ジメチルホルムアミド、トルエン、ヘキサン、ジェチルエーテル、アセトン等の有機

溶媒中、あるいはその混合溶媒中で、0℃~100℃で数分から数時間反応させることにより上記式(Ⅲ)で示される尿素化合物が得られる。

上記反応により得られた尿素化合物(Ⅱ)に濃硫酸、発煙硫酸、無水硫酸あるいはクロルスルホン酸等を-20℃~100℃で数分から数時間反応させることにより、上記式(Ⅳ)で示されるウレイドベンゼンスルホン酸が得られる。

上記反応により得られたウレイドベンゼンスル ホン酸 (Ⅳ) を塩酸、硫酸あるいは水酸化ナトリ ウム等の水溶液で数分から数時間、室温~150 でで加水分解することにより、上記式 (Ⅴ) で示 されるアミノベンゼンスルホン酸が得られる。

上記反応により得られたアミノベンゼンスルホン酸(V)を上記式(VI)で示されるアミンと、水、エタノール、N、Nージメチルホルムアミドあるいはジメチルスルホキシド等の極性溶媒中、50~200℃で数分から数時間加熱することにより、上記式(VII)で示される環状アミノベンゼンスルホン酸が得られる。この場合、必要ならば

上記アミノベンゼンスルホン酸 (VII) を上記極性 溶媒中でシアノホウ素化水素ナトリウム等の還元 剤を添加し、0~100℃で数分間~数時間反応 させ、還元的アミノ化反応を行うことによっても 本発明の化合物であるアミノベンゼンスルホン酸 (1) が得られる。

又、上記式(VII)で示される環状アミノベンゼンスルホン酸は下記経路(2)によっても製造することができる。

#### <経路(2)>

反応中に生成する酸成分を中和するため適当量の 塩基例えば水酸化ナトリウム、トリエチルアミン 等を加えても良い。

上記反応で得られた環状アミノベンゼンスルホン酸(VII)を上記式(VIII)で示されるハロゲン化合物(式中、2がハロゲン原子を表す場合)と水、エタノールあるいはN、N-ジメチルホルムアミド等の極性溶媒中、室温~150℃で数分間から数時間加熱することにより、上記式(1)で示される本発明の化合物であるアミノベンゼンスルホン酸が得られる。

また、上記式(畑)で示される化合物が、アル

デヒド化合物(式中、 Z が一 C H を表す場合)のときは、該アルデヒド化合物と上記反応で得られた環状アミノベンゼンスルホン酸( VII )をメタノール、エタノール、酢酸、ジメチルホルムアミド、水等の極性溶媒中でパラジウム等の触媒存在下、常法により水素添加して、還元的アミノ化反応を行うか、あるいは上記アルデヒド化合物(VIII)と

$$R_{1} = \frac{\left(\frac{(CH_{z})_{z}}{(CH_{z})_{n}}\right)^{NH}}{SO_{2}H}$$

上記式(IX)で示される。一フルオロアニリンを 亜硝酸ナトリウム等の亜硝酸塩と塩酸、硫酸等の 酸中で、一20~10℃でジアゾ化し、続いて酢 酸、ジオキサン等の極性溶媒中、二酸化イオウと 一20~40℃で反応させて、スルホニルクロリ ドとし、これらを水、エタノール、メタノールあ るいはそれらの混合溶媒中で水酸化ナトリウム等 の強アルカリ存在下、加水分解することにより上 記式(X)で示される。一フルオロスルホン酸が 得られる。

この反応で得られた。- フルオロスルホン酸 (X)をN, N-ジメチルホルムアミド等の極性 溶媒中あるいは無溶媒で上記式 (XI)で示される環状ジアミンと、場合によっては銅粉、ョウ化銅等の触媒の存在下、50~200℃で数時間か

ことにより、上記式

ら数十時間加熱することにより、上記式(Ⅵ)で 示される環状アミノベンゼンスルホン酸が得られる。

#### (実施例)

以下、合成例および実施例により本発明を更に 具体的に説明するが、本発明は、その要旨を超え ない限り、以下の合成例および実施例によって限 定されるものではない。又、合成例および実施例 中の化合物Naは前記表1または表2中の化合物Na に対応する。

#### 参考例 1

2 - アミノ - 5 - n - プロピルベンゼンスルホン酸の合成

パラー n ープロピルアニリン 3 1.4 g を酢酸 1 1 6 ml、および水 2 3 2 mlに溶解しイソシアン酸ナトリウム 1 3 0 g と水 9 0 0 mlからなる混合溶液 2 0 0 mlに上記溶液を滴下した後、氷浴中で 3 0 分間攪拌し、折出した結晶を遮取、水洗後、乾燥して 3 8.8 8 g の 4 ー n ープロピルフェニルウレアを得た。この 4 ー n ープロピルフェニルウレアを得た。この 4 ー n ープロピルフェニルウレ

た。この抽出液から酢酸エチルを減圧留去した残 査に2規定の水酸化ナトリウム90mlおよびジオ キサン200mlを加え、100℃で5分間加熱後、 酢酸にて中和し、反応生成物をシリカゲルカラム クロマトグラフィーにて精製し(展開溶媒:クロ ロホルム:メタノール:酢酸=500:50:6)、 上記目的物7.13g(収率39.9%)をペースト 状として得た。

N M R ( D M S O - d 6 ) δ p p m : 0. 8 6 8 ( t , 3 H ) 、 1. 5 3 6 ( m , 2 H ) 、 2. 5 1 ( t . 2 H ) 、 7. 0 0 ( q , 1 H ) 、 7. 1 5 5 ( m , 1 H ) 、 7. 4 6 8 ( d d , 1 H )

#### 合成例 1

2 - (1 - ピペラジニル) - 5 - メチルベンゼンスルホン酸の合成(化合物№12)

2 - フルオロー 5 - メチルベンゼンスルホン酸 0.76gとピペラジン3.44gをヨウ化網0.76gおよび銅粉0.26gの共存下で、封管中160 でで8時間反応させた後、反応生成物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにて精製し(展開溶 アを20%発煙硫酸107.6 m1中に少しずつ添加した後60℃で2時間反応させ、氷浴にて冷却下、氷約400m1を加え、4時間加熱遅流し、冷却して折出してくる結晶を遮取、水洗後、乾燥して下記物性の上記目的物30.09g(収率64.1%)を得た。融点:261.7~262.3℃ 参考例2

2 - フルオロー 5 - n - プロピルベンゼンスル ホン酸の合成

2 ーフルオロー5 ー n ー プロピルアニリン12.53gを濃硫酸73ml及び水120mlの混合溶酸た溶解し、一10℃に冷却し、この中に亜硝酸ナトリウム水溶液を一5℃以下で滴下後、25分間で力ム水溶液を一5℃以下で滴下後、25分間との温度で慢拌し、ジアゾニウム塩溶液を調整を120mlと塩化網292mlを水20mlに次に2分配で消下した。このジアゾニウム塩溶液を、2酸化イオウ酸和酢酸120mlと塩化網292mlを水20mlに次に10℃で30分間さらに0℃で1時間機拌した後、分離してきた油状物質を酢酸エチルで抽出し

媒; クロロホルム: メタノール: 酢酸 = 100: 100:3)、下記物性の上記目的物 0.67 g (収率 65.0%)を得た。

融点:271℃(分解)

同様の方法にて化合物 Ma 9 5 を得た(収率 3 3. 7 %)

融点:300℃以上

#### 合成例2

2 - (1 - ピベラジニル) - 5 - n - プロピル ベンゼンスルホン酸の合成(化合物Na.1 4)

水500 配に2-アミノ-5-n-プロビルベンゼンスルホン酸50.0 g及び炭酸ナトリウム6.2 8gを加え、加熱溶解した。この溶液にビス(2-クロロエチル)アミン塩酸塩88.1 3gを加えた後、3時間加熱湿流した。この反応溶液に炭酸ナトリウム26.2 5gを63可の水に懸濁にた液を更に加え、12時間加熱湿流した。反応液を速に濃縮後、メチルアルコールで抽出し、メチルアルコールを減圧濃縮後、その残査に水200回1を加え、炭酸ナトリウムでpHを約8.0 に調整し

特開刊

たのち、クロロホルム500mlを加え、攪拌した。 析出した結晶を濾過し、クロロホルムで洗浄し、 乾燥させて、上記目的物 4 4.8 3 g (収率 6 7.9 %)を得た。

融点:286℃(分解)

同様の方法で以下の化合物を得た。

化	合	物 Na	収率	(	%)	融	点	(	·c	)		
	9	1	2	7.	6	2	9	0	(	分	解	)
	9	3	5	0.	7	2	3	0	(	分	解	)
	9	4	1	8.	7	2	7	0	(	分	解	)
L at: 174	2											

#### 合成例3

2-(1-ピペラジニル) - 5 - n - プロピル ベンゼンスルホン酸塩酸塩の合成(化合物加工 10)

2 - (1 - U < j = j = n) - 5 - n - T = Uベンゼンスルホン酸50.0gをエチルアルコール 200 m1及び1規定の塩酸185 m1の混合溶液に 加え、加熱溶解した後、減圧濃縮し、析出した結 晶をアセトン洗浄し、乾燥することにより、上記 目的物 5 1.4 6 g (収率 9 5.4 %) を得た。

ペラジニル) -5-n-プロピルベンゼンスルホ ン酸 0.40 g と 2.3.4 ートリメトキシベンズ アルデヒド0.58gを加え、室温で、2時間反応 させ、食塩水およびテトラヒドロフランを加え、 有機層を抽出し、この抽出液からテトラヒドロフ ランを減圧留去後、残査をシリカゲルカラムクロ マトグラフィーにて精製し(展開溶媒;クロロホ ルム:メタノール:酢酸=500:100:6)、 下記物性の上記目的物 0.39 g (収率 58.5%) をガラス状固体として得た。

融点:175~180℃(分解)

NMR (DMSO-d6) 8 ppm: 0.870 (t, 3 H, J = 7.4 Hz), 1.529 (m, 2) H) 2.458 (t, 2H, J = 7.8Hz) 2.637 (broad m, 4H), 3.090 (b road m, 4 H), 3.601 (broad s. 2 H) 、3.752 (s. 3 H) 、3.788 (s, 3 H), 3.817 (s. 3 H), 6.795 (d, 1H, J = 8.7 Hz), 6.909 (d, 1)H = 8 H z) 7.050 (d, 2 H, J = 8. 聯占: 275 (分解)

同様にして以下の化合物を得た。

融点(℃) 化合物No. 220(分解) 1 1 1 225 (分解) 1 1 2

#### 合成例 4

2-(1-ホモピペラジニル) -5-n-プロ ピルベンゼンスルホン酸の合成 (化合物 14.86) 合成例2と同様の方法により、2-フルオロー 5-n-プロピルベンゼンスルホン酸 0.6 1 g と ホモピペラジン2.80gから、下記物性の上記目 的物 0.31 g (収率 37.2%)を得た。

融点:205~210℃(分解)

#### 合成例 5

2-(4-(2, 3, 4-トリメトキシベンジ ル) -1-ピペラジニル) -5-n-プロピル ベンゼンスルホン酸の合成(化合物Na.69)

0.10gのシアノホウ素化水素ナトリウムを2 m1のメタノール溶液に溶解し、これに塩化亜鉛 0. 10gを加えて5分間攪拌した後、2-(1-ピ

7 H z)  $\sqrt{7.638}$  (d, 1 H, J = 2.0 H z)

同様の方法により、化合物 Na.6.6 をガラス状固 体として得た(収率91.1%)。

#### 実施例

合成例で得られたアミノベンゼンスルホン酸誘 導体の心疾患に対する薬剤としての有用性を示す 薬理試験および急性毒性試験について、以下に示 す。

#### 1. モルモット摘出乳頭筋を用いる方法

本発明の化合物の薬理活性である細胞内Ca²・ の過蓄積の抑制の程度を評価するために、本発明 の化合物によるイソプロテレノール作用の抑制を 測定した。

すなわち、イソプロテレノールは心筋細胞内へ Ca\*・を過剰に流入させることによりCa\*・の過 蓄積を起こすことが知られているので(Flec kenstein A, Janke J., oring H, Leder 0; Recen t advances in Studies on cardiac structure a

nd metabolism. myocardial biology, Vol. 4.563-580.1974)、イソプロテレノールの作用を抑制する化合物は細胞内Ca<sup>2\*</sup>過蓄積を抑制するといえる。

#### <方法>

表 3

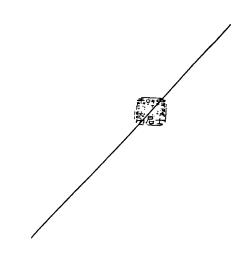
化合物	抑 制 率 (%)		
	英 10 <sup>-5</sup>	物 濃度 10-4	(M) 10-3
1 2	_	_	18.5
14	10.4	19.2	-
6 6	-	-	52.4
6 9	_	-	21.4
9 1	_	<u>-</u>	17.2
9 3	_	_	28.0
9 4	_		18.5
1 1 0	12.5	18.2	42.9
1 1 1	_	_	27.5

上記表3によれば本発明の薬剤はイソプロテレノールによる心筋収縮を抑制しているため、イソプロテレノールの作用を抑制することが明らかであり、従って本発明の薬剤はCa<sup>2\*</sup>の細胞内への過蓄積を抑制することがわかる。

ノールによる収縮増加が何%抑制されるかを測定 することにより、その抑制率を求めた。

#### <結果>

各化合物の抑制率を下記表3に示す。



#### 2. 虚血心筋保護作用

心筋が虚血状態に陥ると、Ca<sup>2</sup>が心筋細胞へ大過剰に流入し、その結果、静止張力は上昇し、また、心筋収縮機能が著しく低下するが、虚血心筋保護作用をもつ変物によりこれらの障害が軽波されることが報告されている(Araki, H. & Lefer, AM.:Role of preservation of ischemicmyocardial tissue in the perfused cat heart. Circ. Res., 47:757-763.1980)。

そこで、本発明の薬剤の處血心筋保護作用を評価するために、ラット摘出心臓を用いた心筋虚血モデルで心筋障害の指標である2つのパラメーター(静止張力の上昇、収縮張力の低下)に対する作用を検討した。以下その方法と結果を示す。
<方 法>

雄性ウイスター系ラット (250~350g)

4

静止張力上昇 収縮力 澧 度 化合物Na (%) ( M ) (g) 3 2. 5 0.72 対 照 10-5 6 9 0.25 5 8. 4 3 2. 2 10.7 0.48 1 1 0 6 5. 4 10-0.33 7 7.0 10-5 0.09

上記表4によれば、本発明の薬剤は虚血状態による静止張力の上昇を抑制し、又、虚血状態により引き起こされる心筋障害に伴い心筋収縮力が低下することを防いでいる。

従って本発明の薬剤は虚血状態にある心筋に対 して保護作用を有することが明らかである。

#### 3. 心不全モデルにおける効果

高用量のβ遮断薬を投与して細胞内Ca<sup>11</sup>を滅 少させることにより心機能が低下したイヌを用い て、本発明の薬剤の心不全改善作用を検討した。

より心臓を摘出し、うって、95%の1・05%

#### <結 果>

結果を下記表4に示す。



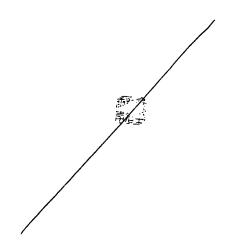
以下にその方法と結果を示す。

#### <方法>

なお、対照として本発明の薬剤の代わりに生理 食塩水を投与した系を用いた。

<結果>

左心室の収縮力を表す指標として d P / d t m a x を用い、試験開始前の左心室 d P / d t m a x を 1 0 0 としたときのプロプラノロール投与後、および本発明の薬剤もしくは生理食塩水投与 4 5 分後の値を下記表 5 に示す。



棄物投与45分後 (P<0.01)  $76.0 \pm 3.3$ 50.6 ± 5.7 (左心室収縮力) 7075/0- $8.4 \pm 3.6$  $59.6 \pm 4.1$ max 中 技 dP/dt 試験前値 0 . 1 0 蝈 (mg/kg) 中 钦 (2=2) 1 1 0 (N = 5) 4□ 2

上記表 5 によれば、本発明の薬剤はプロプラノロールにより細胞内 C a \*\*が著しく減少したことにより低下した左心室収縮力を上昇させているため、本発明の薬剤が心不全の改善作用を有することがわかる。

#### 4. 急性毒性

本発明化合物のうち、Ma.1.1.0 の化合物についてマウスにおける急性毒性を検討した。

#### <方法>

雄性マウス(18~25g)に化合物No.110の生理的食塩水(0.9%塩化ナトリウム)を投与し、50%致死量LDs。を算出した。投与経路は尾静脈内投与(LDs。算出はupanddoのwn法によるもの)、並びに、経口投与(LDs。算出はprobitkによるもの)の2経路とした。

#### <結果>

結果を下記表6に示す。

	表 6	
	静脈内投与	経口投与
L D so	6.3	2800
( ng / kg )		

#### (発明の効果)

ß

ŧ

. : •

本発明の裏剤は、心筋または血管平滑筋の細胞内Ca\*\*濃度を調節する作用を有するので、各種の循環器系疾患、例えば狭心症、心筋梗塞、高血圧、心不全あるいは不整厥等の予防または治療に有用である。

出 願 人 三 変 化 成 株 式 会 社 代 理 人 弁理士 長 谷 川 ー (ほか1名) 第1頁の続き

⑤Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

// C 07 D 243/08 295/08

7180-4C 6701-4C Α

⑫発 明 者 森田

雪 深

神奈川県横浜市緑区鴨志田町1000番地 三菱化成株式会社

総合研究所内

# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
☐ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

# IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.